

## 管内月間火山概況（令和4年12月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

## 噴火警報及び噴火予報の発表状況（12月31日現在）

警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火予報	レベル1（活火山であることに留意）	アトサヌプリ、雌阿寒岳、大雪山、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山
	活火山であることに留意	知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山



## 凡例

噴火警戒レベル対象火山

▲：噴火警報発表中

△：噴火予報発表中

噴火警戒レベル対象外の火山

●：噴火警報発表中

○：噴火予報発表中

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

この管内月間火山概況は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人産業技術総合研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータも利用して作成しています。

次回の管内月間火山概況（令和5年1月分）は令和5年2月8日に発表する予定です。

## 各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりで、予報警報事項に変更はありません。

### アトサヌプリ〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

### 雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

GNSS 連続観測では、2022 年8月頃から山体の浅部及び深部の膨張を示すと考えられるわずかな地殻変動がみられています。ポンマチネシリ 96-1 火口付近浅部では、8月頃から地下の熱活動の高まりを示すと考えられる全磁力変化が観測されており、火山性地震の一時的な増加も時々みられています。各火口の噴煙・噴気活動には特段の変化はみられていませんが、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

### 大雪山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

### 十勝岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

2021 年頃から GNSS 観測点で山体浅部の収縮を示すと考えられる地殻変動が観測されており、62-2 火口、振子沢噴気孔群及びその周辺では噴煙・噴気の量が増加した状態が続いています。浅部の熱活動は引き続き活発な状態ですので、今後の火山活動の推移には注意が必要です。

### 樽前山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

なお、山頂溶岩ドーム周辺では高温の状態が続いていますので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

### 倶多楽〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

### 有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

### 北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

### 恵山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。